



Japan International Education Society

日本国際教育学会

第37回研究大会 開催要項

日程：2026年10月3日（土）・10月4日（日）

会場：立命館大学 衣笠キャンパス 洋洋館

ご挨拶

日本国際教育学会第37回研究大会を、下記の要領にて立命館大学衣笠キャンパスにおいて開催いたしますことを、大変光栄に存じます。本学は、多文化共修・国際共創を理念に、多様な背景をもつ人々が学び合う場づくりを推進してまいりました。本大会が、そうした知の交流をさらに深化させ、新たな国際教育の地平を切り拓く契機となれば幸いに存じます。実り多き2日間となりますよう、会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

第37回研究大会実行委員長 羽谷沙織

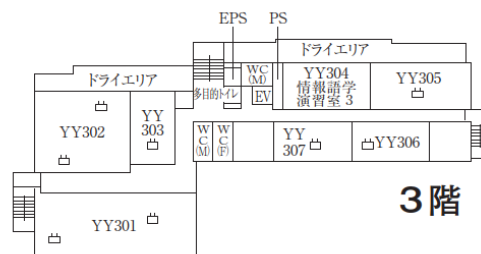
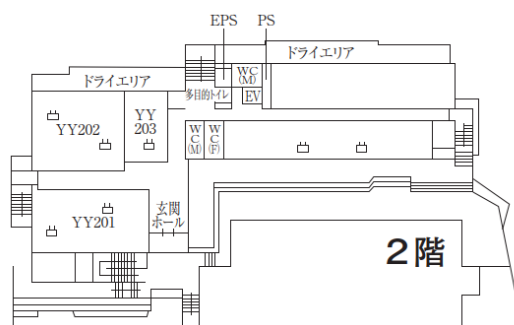
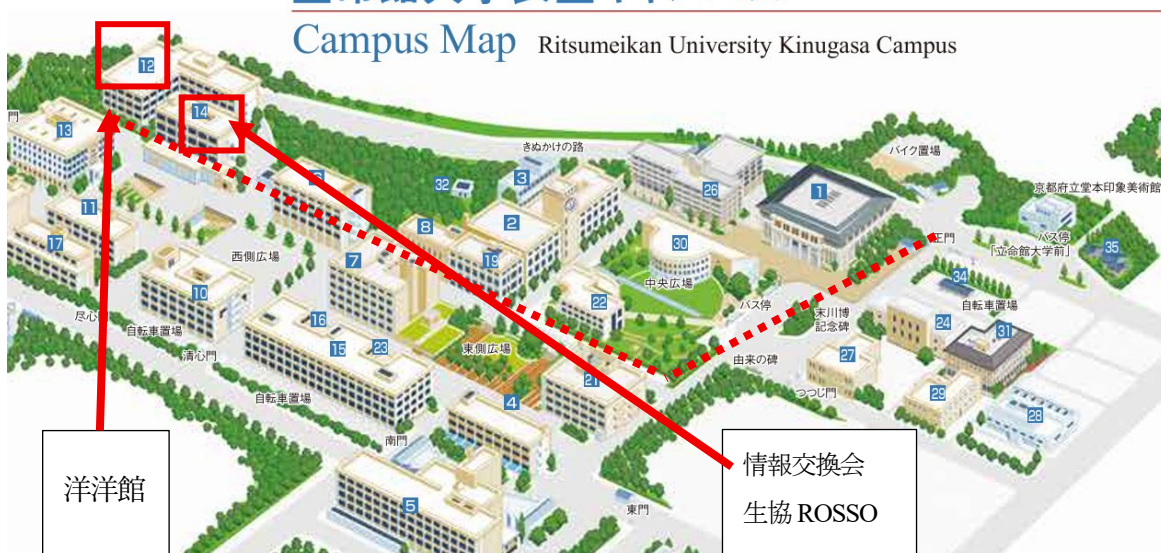
1. 開催日時・場所

(1)日時 2026年10月3日(土) 10:00 ~10月4日(日) 15:00

(2)会場 立命館大学 衣笠キャンパス 洋洋館 (〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1)

立命館大学衣笠キャンパス

Campus Map Ritsumeikan University Kinugasa Campus



■JR・近鉄京都駅から

市バス50にて42分、市バス・JRバス快速立命館にて36分、「立命館大学前(終点)」下車。

市バス205にて38分、「衣笠校前」下車、徒歩10分。

JRバス 高雄・京北線にて30分、「立命館大学前」下車。

■JR 円町駅から

市バス・JR バス快速立命館にて 8 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 15 にて 10 分、臨にて 9 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 204/205 にて 5 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分。

JR バス 高雄・京北線にて 8 分、「立命館大学前」下車。

■阪急電車西院駅から

市バス・JR バス快速立命館にて 15 分、臨にて 17 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 205 にて 13 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分。

■京阪電車三条駅から

市バス 12 にて 53 分、市バス 15 にて 34 分、市バス 51 にて 36 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 59 にて 40 分、「立命館大学前」下車。

*詳しくは立命館大学 HP をご覧ください。<https://www.ritsumeai.ac.jp/accessmap/kinugasa/>

*宿泊についてはご自身でご手配くださいますよう、お願い申し上げます。

2. 開催方法

大会は対面式で開催いたします。

3. 大会日程

10月3日（土）

時間	プログラム	使用教室
9:30-10:00	受付	洋洋館 2 階
10:00-11:30	自由研究発表 I	YY201、YY 202、YY 302
11:30-12:30	昼食休憩 シンポジウム打ち合わせ	YY 307、YY306 YY 303
12:30~14:45	公開シンポジウム	YY301
15:00-16:00	総会	YY 301
16:15-18:00	情報交換会	生協 ROSSO（上記マップ 14）

10月4日（日）

時間	プログラム	使用教室
9:30-10:00	受付	洋洋館 2 階
10:00-12:00	自由研究発表 II	YY201、YY 202、YY 302
12:00-13:00	昼食休憩	YY 307、YY306
13:00-15:00	課題研究	YY301

*自由研究発表分科会（YY201、YY 202、YY 302）、公開シンポジウム・課題研究（YY301）、会

員控室・休憩室（YY307、YY306）、理事・シンポジウム登壇者控室（YY303）、事務局控室（YY203）

*大会両日とも、学内の売店・食堂はすべて休業しております。近隣にコンビニエンスストアやレストランはありますが、店舗数に限りがございます。お手数をおかけいたしますが、各日とも昼食は、事前に各自にてご持参・ご準備くださいますようお願い申し上げます。

4. 参加申込・参加費

(1) 参加申込

参加申込は 2026 年 7 月 1 日（水）から大会当日までに、以下の参加申込フォームに必要事項を記入の上、ご送信下さい。会場では当日も参加の手続きができます。

<https://forms.gle/5HdWU37AjzdfxZ7j7>

(2) 参加費

大会参加費	会員 3,000 円	学生会員 無料	非会員 4,000 円
情報交換会参加費	会員 4,000 円	学生会員 3,000 円	

*参加費は、受付の際に現金でお支払い下さい。その際に領収書をお渡し致します。学生の大会参加費につきましては無料です。また、10 月 3 日（土）に予定しております公開シンポジウムのみに参加される場合は、無料です。

*今大会では情報交換会を予定しておりますので、みなさまのご参加をお待ちしております。情報交換会参加費は、当日、現金でお支払い下さい（会員 4,000 円 学生会員 3,000 円）。

5. 自由研究発表申込

(1) 発表申込ができるのは、本学会の会員で 2026 年度(2026 年 8 月 1 日以降)の年会費を完納している方です。非会員の方は、申込期限までに入会申込の手続きをお願いします。共同研究でプログラムに口頭発表者を示す○がつかない場合も例外ではありません。

(2) 申込期間 2026 年 7 月 1 日（水）～8 月 4 日（火）（厳守）

(3) 発表申込は上記の期間中に、以下の発表申込フォームに必要事項を記入し、ご送信下さい。

<https://forms.gle/2zbgCm93qFSooUNK6>

(4) お申し込みの際のメールアドレス宛に、実行委員会事務局より「受領確認メール」をお送り致します。8 月 5 日（水）の時点で「受領確認メール」が届かない場合は、大会実行委員会宛にご照会下さい。

(5) 申し込みをされた発表題目を後日、変更することはできません。申し込み時の発表題目を大会プログラム等に掲載しますので、ご注意願います。また、発表日や発表順は大会実行委員会で決定させていただきます。ご希望等は受付致しかねますので、予めご了承下さい。

(6) 発表に際し、PC 使用の場合、パソコンは各自でご用意(お持ち込み)下さい。プロジェクター

は利用できます。また、VGA ケーブルおよび HDMI ケーブルはすべての会場に備え付けられています。なお、コンピュータを VGA 端子等に接続する際の変換アダプタは、各自でご用意頂くようお願いいたします。

6. 発表当日の留意事項

- (1) 配付資料は、発表者が事前に各自印刷(20 部程度)の上、会場にご持参願います。
- (2) 発表者は当該分科会 10 分前までに各会場にお入りください。
- (3) 発表時刻および発表順の変更は原則として行いません。

7. 発表時間および発表要旨・発表資料

(1) 発表時間

個人研究/口頭発表者が 1 名の場合の共同研究→ 発表 20 分 質疑応答 10 分

口頭発表者が 2 名以上の場合の共同研究→ 発表 40 分 質疑応答 20 分

(2) 発表要旨提出期間 8月5日(水)~8月31日(月) (厳守)

自由研究発表を申し込まれた会員は、下記の発表要旨集録原稿作成要領にしたがって原稿を作成し、要旨提出用フォームまたは大会実行委員会宛のメール(添付ファイル、PDF 形式)により、ご提出下さい。

発表要旨提出用フォーム: <https://forms.gle/dyAgimpiAYTrJN1X6>

大会実行委員会メールアドレス: jies37rits@pm.me

上記の「要旨提出用フォーム」で要旨を提出する際には、Google アカウントにログインする必要があります。Google アカウントをお持ちではない場合、「大会実行委員会宛のメール」にお名前、発表題目を記載した上で、要旨をお送りください。

(3) お申し込みの際のメールアドレス宛に実行委員会事務局より「受領確認メール」をお送り致します。9月4日(金)時点で「受領確認メール」が届かない場合は、大会実行委員会宛にご照会下さい。

(4) 発表要旨集録原稿作成要領

- ① 原稿締切 2026 年 8 月 31 日(月) (必着)
- ② 原稿サイズ A4 縦長 横書き
- ③ ページ設定 文字数 40 字、行数 38 行、余白 上下左右ともに 25mm
- ④ ページ数 口頭発表者が 1 名 : 2 頁以内 口頭発表者が 2 名以上 : 3 頁以内
- ⑤ タイトルはセンター揃え、名前は右揃えです。

1 ページ目は以下のように設定して下さい。

- ・1 行目: タイトル
- ・2 行目: サブタイトル *サブタイトルがない場合は詰めて下さい。

- ・3 行目: 空ける
- ・4 行目: 氏名(所属) *共同研究の場合、複数の氏名(所属)は 1 行にまとめず、1 人ずつ行を変えて記載し、口頭発表者の氏名の前に○印を記載して下さい。
- ・5 行目: 空ける
- ・6 行目: 本文開始

*サブタイトルの有無や共同研究者の有無によって本文開始位置は変わります。

⑥ フォントは、MS 明朝、12 ポイントとします。

基本的にはご提出いただいた原稿のまま印刷しますが、全体のレイアウトは大会実行委員会で編集します。以下の〈参考例〉1～3 をご参照下さい。

〈参考例 1〉

タイトル —サブタイトル—
氏名 (所属機関)
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から・・・・・・・・

〈参考例 2〉

タイトル
氏名 (所属機関)
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から・・・・・・・・

〈参考例 3〉

タイトル
○氏名 (所属機関) 氏名 (所属機関)
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から・・・・・・・・

8. 課題研究

海外諸国の外国人政策と共生社会

—ウェルビーイングの視点から—

日本の在留外国人数は増加の一途を辿っている。出入国在留管理庁による2025年の報道発表資料によれば、2025年6月末時点で395万6,619人となり、過去最高を更新した。人口減少が進む日本の経済を支える存在として注目度が高まる一方、就労、教育、医療、住宅など様々な分野で外国人材の受け入れや共生が課題になっている。

本学会では、第33回研究大会公開シンポジウム「外国人市民への生涯学習支援と多文化共生—関西地方の実践を中心に—」において外国人への日本語教育を中心とする学習支援について検討した。第37回研究大会では、より広い視野から、この喫緊の課題にアプローチし、海外諸国の外国人政策と共生社会をめぐる課題について検討してみたい。その際、第36回研究大会の課題研究で取り上げたウェルビーイングの概念を手がかりに、各国に共通する普遍的かつ理論的な課題の提示を試みる。

まず総論として日本の外国人政策に関する論点や理論的な検討課題を海外の先行事例との比較から提示する。次に外国人や移民の受入国（イタリア）と、送出国（中国）の事例をそれぞれ具体的に検討し、最新動向を踏まえた上で、各国に共通する本質的な課題に迫り、日本の現状への示唆を得たい。

司会者 佐藤千津（国際基督教大学）

ディスカッサント 岩槻知也（京都女子大学）

報告者

1. 前田耕司（早稲田大学・名誉）

「オーストラリアの移民教育支援策と共生社会の課題—日豪の比較の視点を交えて—」

2. 高橋春菜（盛岡大学）

「イタリアにおける外国人受け入れ制度と難民政策の実態（仮）」

3. 小川佳万（広島大学）

「中国からの国際移民の構造的変化」

9. 公開シンポジウム

DEI をめぐる教育の現状と課題—錯綜する議論から解決の糸口へ

近年、Diversity・Equity・Inclusion (DEI) をめぐる理念や実践は、アメリカを中心として社会的・政治的な論争の対象とされている。Black Lives Matter (BLM) 運動に象徴されるように、DEI の理念が社会的支持のもとで拡張・推進された局面が存在する一方で、現在では政策的制限や批判の対象ともなっている。このような状況のもとで、DEI はしばしば特定の政治的立場と結びつけて理解され、「賛否」をめぐる対立的な言説のなかで語られる傾向が強まっている。しかし、本来 DEI とは、社会および教育制度の内部に存在する不平等や排除の構造を可視化し、多様な人びとが学習や活動に参加する条件をいかに整えるかを問う分析枠組みとして構想されてきた概念である。

本シンポジウムでは、こうした DEI をめぐる社会的・政治的動向を踏まえつつ、DEI の本来的な目的および理論的背景をあらためて整理し、教育分野における意義と課題について検討することを目的とする。具体的には、福留東土氏（東京大学）がアメリカの大学における DEI をめぐる政策的・制度的動向を整理し、太田浩会員（一橋大学）が留学生受け入れをめぐる日本と英語圏の高等教育政策を比較的观点から検討する。これを受けて、堀江未来会員（立命館大学）は、小学校段階における国際教育および異文化理解教育の実践を手がかりとして、発達段階の早い時期から、DEI に対する感性を育む教育の重要性を提起する。

これらの報告を通して、DEI を特定の政治的立場に還元するのではなく、教育における公平性および包摂性を検討するための理論的・実践的枠組みとして捉え直し、今後の教育研究および教育実践の方向性について議論する場としたい。

司会者 羽谷沙織（立命館大学）

報告者

1. 福留東土（東京大学）

「アメリカの大学における DEI を巡る動向」

2. 太田浩（一橋大学）

「世界的な留学生受け入れ政策の分岐を考察する：DEI の視点と展望を含む」

3. 堀江未来（立命館大学）

「小学校からの DEI 教育：異文化感受性を育む国際教育実践」

10. 大会実行委員会事務局連絡先

日本国際教育学会 第37回研究大会実行委員会 E-mail: jies37rits@pm.me

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学 国際教育推進機構

実行委員長 羽谷沙織（立命館大学）

実行委員 河野はぎな（名古屋大学大学院）

大会担当理事 服部美奈（名古屋大学）